



アドバンス・ケア・プランニング(ACP:人生会議)

近畿大学病院のAYA世代患者における アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の現状と取り組み

今回はAYA(思春期・若年成人: Adolescent and Young Adult)世代におけるACP(アドバンスケアプランニング; Advance-care planning)について、近畿大学病院としての取り組みを紹介させていただくことになりました。

ACPとは、病気の現在の治療方針だけでなく、意思決定が困難になるかもしれない将来の変化(終末期など)に備え、今後受けたい医療及びケアについても、患者さんを主体に、ご家族や近い人、医療提供者が、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのことです。

AYA世代は、進学や就職、独立や結婚、出産など人生の中でもライフステージが移り変わる時期です。がんを発症された場合、学校や仕事の調整、親や子供など家族への伝えかた、恋人や友だちなど周囲の近い方達との関係など、多方面との関わりに色々と悩むことが多い年代です。加えて、一般的にがんを含めた難治性の病気になられる方が多くない世代であることもあり、AYA世代に対しての社会的な補償・療養制度が充実しているとは言い難く、療養中の環境整備に苦労されることが少なくありません。

そのような中で、患者さんご本人とご家族・医療提供者が繰り返し話し合い、「どのような治療を受けて、どのように過ごしていくのか」、患者さんの意思を明確にしていくことは、患者さんご本人の意思を尊重するために必要なだけでなく、ご本人が過ごしやすい環境を準備するためにも、重要なことではないかと考えます。ご家族だけでなく、担当医とも好んで話したい話題ではないとは思いますが、家族間や医療提供者との良好なコミュニケーションの促進にも繋がるもの、とも考えます。

当院ではAYA世代を含めたがん患者さんのACPについて、担当医のみならず、がん相談支援センターの看護師、心理師や、ソーシャルワーカーなどと協力して進めるように努めています。AYA世代の患者さんに限ったことではありませんが、直接担当医と話しにくいことも少なくないですし、患者さんごとにニーズも異なるので、色々な職種からなるチームで患者さんを支援することが大事だと感じています。

ACPについて気になった方・相談されたい方は、お気軽に担当医やがん相談支援センターに声をかけてください。誰かに相談することで、患者さんご家族の間でACPについて話し合いを始めるきっかけにもなると思います。



近畿大学病院
腫瘍内科
助教
稲垣 千晶
2010年千葉大学医学部卒
2021年より現職
がん薬物療法専門医
消化器内科専門医
総合内科専門医

[おすすめの旅行先]
雪が降った日の京都:
いつも以上の荘厳な雰囲気味わえます。

**講演会
のご案内**

テーマ: 前立腺がん

ともに生きる会
～公開セカンドオピニオン～

2023年8月12日(土)
13:30～16:00

「前立腺がん」をテーマに、各専門科の先生がレクチャーを行い、視聴者のみなさまの疑問・質問にライブ形式で回答いたします。アーカイブも残しておりますので、みなさまぜひご覧ください。

お申し込みは
こちらから!

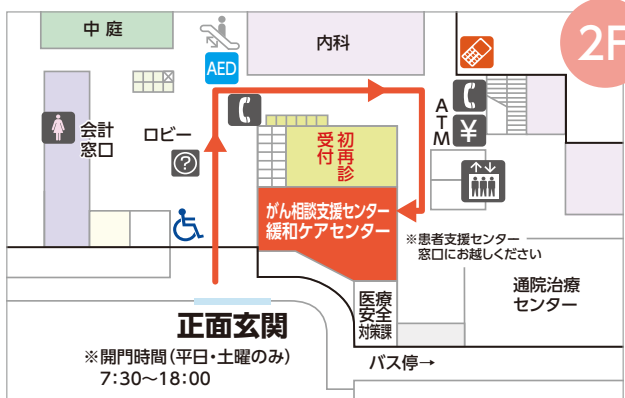
**Youtube
ライブ配信**

要お申し込み

ともに生きる会
～WEB勉強会～

がん患者さんやご家族が正しい医療の知識と理解を深める会です。医師や看護師、社会福祉士など多職種によるWEB講話を配信しています。

QRコードより
ご覧いただけます



近畿大学病院 がんセンター
Kindai University Hospital Cancer Center

Tel.072-366-0221

<https://www.med.kindai.ac.jp/gancenter/>

近畿大学病院
KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL

<https://www.med.kindai.ac.jp/>

facebookでも情報配信中!

@kindai.medicine



近畿大学病院 がんセンター
Kindai University Hospital Cancer Center

がんセンターだより



2009年、
**地域がん診療
連携拠点病院**
に指定されました



新がんセンター長のあいさつ

2022年10月より「がんセンター長」を拝命しました中川和彦です。近畿大学病院腫瘍内科に所属し、これまで副がんセンター長、がん相談支援センター長を務めておりました。近畿大学病院は多種多様な疾患に対応できる高度先進医療病院ですが、その中でも「がん診療」は近畿大学病院が最も力を入れている疾患領域のひとつです。近畿大学病院は国が認定するがん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院であり、多様ながん診療の専門家が集まる日本でも有数の「包括的がん診療病院」であり、関西地区のがん診療を推進する大きな役割を担っています。

近畿大学病院がんセンターは近畿大学病院が実施するがん診療全体を有効的・効率的かつ安全に実施可能とする役割を担っています。実際のがん診療の治療部分は近畿大学病院の各診療科が行いますが、全体的ながん情報の提供や緩和ケアなどすべてのがん患者さんやそのご家族に

必要とされる支援は各診療科とがんセンターが協働して担います。そのためにがんセンターには、がん相談支援センター、緩和ケアセンター、通院治療センター、放射線治療部、がん治療レジメン審査委員会、ACP委員会など様々な医療部門、委員会が設置され日々連動して支援活動を行っています。私はがん患者とそのご家族が一日でも長く、大切な人生を満足して生き抜いていただくために、がんセンター長としてこの支援活動の充実のために最大限の努力をして参ります。

近畿大学病院がんセンターが皆様方のより身近な存在として活動することができるよう、皆様方との交わりを密にして参ります。どうかご支援をよろしくお願い致します。



近畿大学病院
がんセンター長
中川和彦

1983年 熊本大学医学部卒業
1986年 国立がんセンター研究所
薬効試験部(リサーチレジデント)
1994年 Medicine Branch, NCI,
NIH (Visiting fellow)
2007年 近畿大学医学部 腫瘍
内科(教授)
現在に至る

[おすすめの旅行先]
美ヶ原高原

近大の支援体制(がん相談)のご紹介

AYA世代

小児 AYA 世代の特有のニーズ(就学や就労、
ケアパッケージを提供し、様々

妊よう性、社会制度、アピアランス)に対する
なご相談内容に対応いたします。

診断時



01 就学・就労

就学

義務教育期間の院内学級のご案内や
高等学校以降の学習支援について情
報提供やサポートを行い、治療中・
治療後も切れ目なく教育を受けられ
るように支援します。

就労

治療を続けながら働く人を応援しま
す。休職することのご不安やその間
の保障制度、働き方や職場との相談
場面での困りごと、復職などについ
て情報提供や対応について一緒に考
え支援します。

02 妊よう性

妊よう性温存は、がん治療の前に行うことが大切です。
まずは、がんと診断された際には、治療開始までにが
ん相談支援センターまでお越しください。
がん治療による生殖機能への影響、妊よう性・生殖機
能温存の方法や費用に関する情報提供、がん患者等妊
よう性温存治療費助成事業のご案内などができます。

※妊よう性とは、「妊娠するための力」のことをいいます。
つまり妊娠するために必要な能力のことですが、妊娠するために必要
な臓器と機能と言い換えることができます。

03 社会制度

必要な医療を安心して受けられるよ
うにするための様々な制度がありま
す。相談員が状況に応じた制度(医
療費に関するもの、所得保障、生活
で活用できるサービス等)の活用に
関する情報提供や問題解決に近づく
ための支援を行います。

04 アピアランス

アピアランス(外見の変化)でお困
りの方に「社会とのつながり」を
持ち続けられるように支援します。
病気や治療による脱毛や皮膚トラ
ブルなどに対して、ウィッグ選び
のポイントや脱毛時の生活の工夫、
メイクアップ、スキンケアなどに
ついてサポートできます。

※自治体によるウィッグや乳房補正
具などの助成金制度の情報提供を
します。



外来

入院



小児 AYA

ケアパッケージ内容

0歳～18歳
(高校生まで)
高校卒業後
18歳～39歳

がんと診断されたら、まずは
がん相談支援センターにお越しください。
ケアパッケージの内容に沿って対応致します。

1 相談窓口

- ☐がん相談支援センターについて
- ☐若くしてがんになったあなたへ
- ☐小冊子「AYA」

2 制度について

- ☐制度のご案内(小冊子)

3 仕事のこと

- ☐仕事のことで悩んでおられる方へ
- ☐傷病手当制度の仕組み
- ☐障害年金のご案内

4 外見上のこと

- ☐医療用ウィッグ及び乳房補正具購入費
助成事業のご案内 ※市町村により
- ☐医療用ウィッグの無償提供のご案内
※18歳まで

5 将来、子どもを希望される方

- ☐大阪府がん患者等妊孕性温存治療費等
助成事業のご案内
- ☐がん治療前の妊孕性・生殖機能温存に
ついて
- ☐日本がん・生殖医療登録システム(新
JOFR)について

これから知っておくと良いと思うものをご用意しております。
是非、保管して頂き必要なときに必要なものをご覧ください。
分からないことがあればがん相談支援センターまでご相談ください。



「AYA世代のがん患者さんへの支援体制」について

AYA世代(15～39歳)の診療では、病気に対する治療だけではなく、就学や就労、
結婚や出産、子育てなど一人ひとりから生じる多様なニーズへの支援が必要にな
ります。

近畿大学病院では「小児・AYA サポートチーム」を立ち上げ、この年代のがん
患者さんが少しでも困らない、悩まない、不安にならないよう、長期的な視点で
支援できる体制づくりに取り組んでいます。多職種が連携し、各診療科において
横断的に活動することで、医療機関全体としてのAYA支援の充実を図るとともに、
支援の重要性を院内外で啓発していきたいと考えています。



近畿大学病院
血液内科 輸血細胞治療センター
臨床教授
田中 宏和

1995年 浜松医科大学医学部医学科 卒業
2001年 神戸先端医療センター 再生医療研究部
主任研究員
2008年 大阪大学大学院医学系研究科
血液・腫瘍内科 助教
2011年 近畿大学医学部 血液内科
医学部講師
2023年より現職

「おすすめの旅行先」
年一回のお伊勢詣り(清しい心になります)

がん相談支援センターからのお願い

近畿大学病院は、地域がん診療連携拠点病院、小児がん連携病院に指定されて
おり、小児 AYA (Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人): 15歳から 39
歳までの世代)の支援体制を整備しています。

外来でがんを診断を受けたら、必ずがん相談支援センターにお立ち寄り頂きま
す。就労・就学、医療費等の社会制度、アピアランス、妊孕性の情報をケアパッケー
ジとして提供し、問診票を用いて患者さんやご家族のニーズを丁寧に聴取します。
小児 AYA 世代の患者さんは積極的にがん相談支援センターをご利用ください。



近畿大学病院
がん相談支援センター
がん看護専門看護師
柏田 孝美

2009年 聖路加看護大学院修了
2010年 がん看護専門看護師

「おすすめの旅行先」
屋久島

AYA世代がんとは

AYA世代は、思春期・若年成人（Adolescent and Young Adult）15～39歳の年代を指します。この世代に発症するがん種は、小児期（0～15歳）に発症する悪性腫瘍の頻度が多く、造血器腫瘍（急性白血病や悪性リンパ腫）や固形腫瘍であれば肉腫の割合が多くなります。また、若年女性では乳がんや子宮頸がんの比率が高くなってきます。年間の発症数は、0～14歳 2,100人、15～19歳 900人、

20歳代 4,200人、30歳代 16,300人（2015年がん登録より）で、成人がんの89万人と比較しますと稀少です。



AYA世代がんの治療について

成人がんと比較しますと化学療法や放射線療法に感受性が高く、固形腫瘍では外科療法を組み合わせた集学的治療を行います。AYA世代がんは、小児がんと比較して治療成績が悪いことが明らかになり、近年、それを改善する取り組みがされています。大阪府のがん登録を基にした急性リンパ性白血病の5年生存率（2001～2005年）では、15～19歳 約70%、20～29歳 約30%と小児（0～14歳）約80%と比較して不良でした。海外での臨床研究の結果から、この年代の急性リンパ性白血病は、成人用プロトコルより小児用プロトコルで治療することにより治療成績が改善することから、現在は、小児と同じプロトコルで治療が行われています。

その他に、AYA世代がんの治療成績に影響を及ぼす要因が色々あります。この年代は、教育（高校・大学）、受験、就職、結婚、妊娠・出産等ライフステージが大きく変化する年代です。そして、この年代の長期間にわたるがん治療は、個人の人生設計に大きく影響しますので、十分に治療に専念できないといった事情があります。また、19歳以上では、小児がん患者に適用される医療助成を受ける

ことができず、経済力の乏しい若年世代では医療費の問題が影響します。思春期世代では、思春期特有の精神・心理的な問題が影響する場合があります。そして、彼らは、精神的支援を親世代より同世代に求めますが、その支援体制は十分ではありません。さらに、教育、妊孕性温存や就労支援も必要となります。

以上より、AYA世代のがん治療におきましては、安心して治療に専念し、治療終了後のサバイバーが生き生きと社会生活をおくれるように、治療開始時からの多職種による支援が重要となります。現在、近畿大学病院がんセンターでも、AYA世代の支援体制の整備を行っております。



近畿大学病院
小児科思春期科
准教授
坂田 尚己

1985年 和歌山県立医科大学卒業
1985年 大阪大学付属病院小児科研修医
1986年 大阪厚生年金病院（現JCHO大阪病院）小児科
1989年 国立病院九州がんセンター小児科
1991年 大阪母子医療センター 血液腫瘍科（1994～1997年米国コロラド大学留学）
2004年 近畿大学病院 小児科・思春期科

【おすすめの旅行先】
象頭山（香川県）こんぴらさん（金比羅宮）の奥にある低山です。

子宮頸がんヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンについて

HPVワクチンは、世界約100か国で導入されていますが、日本が世界中でも極端に接種率が低いことをご存じでしょうか？毎年、何人の日本人女性が子宮頸がんを発症して、どれくらいの女性が亡くなっているのでしょうか？子宮頸がん検診受診率はどれくらいでしょうか？今日は一緒に正しい知識を学びましょう。

2013年にHPVワクチンによる副反応疑いの症状がメディアで多く報道され、厚労省が約8年に渡り積極的勧奨を差し控えました。その結果、世界中の多くの国で接種率が80%を超える一方で、日本は1%以下という危機的な状況に陥りました。

日本では毎年約1.1万人の女性が子宮頸がんになり、毎年約3000人が亡くなっています。30代までにがん治療で子宮を失い妊娠できなくなる人も、毎年約1000人います。検診に通っている割合は、欧米では84.5%なのに対して、日本では42.1%、20代では30%を下回っています。2022年4月より16歳から25歳の女性が公費接種できるようになりましたが、いまだ接種率は15%程度です。医師として、とても悲しく悔しいと感じています。接種率の高い国では子宮頸がんの撲滅が予測されている中、日本人女性のみ子宮頸がんによって命を落とし続けることになります。なんとかこの状況を皆さんと一緒に変えたいと思っています。

HPVワクチンは接種時の痛みが大きく、緊張や

恐怖などにより心拍数や血圧が低下する「血管迷走神経反射」で気分不良や失神することもあるため、背もたれのある椅子や横になり様子を見ることが大切です。ワクチン接種群と非接種群において、健康被害にあげられる病気の発生頻度に差はありません。しかし、現実には日常生活もままならない深刻な症状に苦しんでいる人もいるため、よりていねいな対応が求められます。

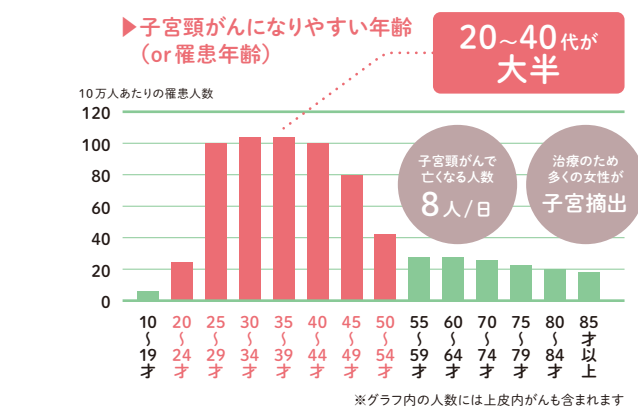
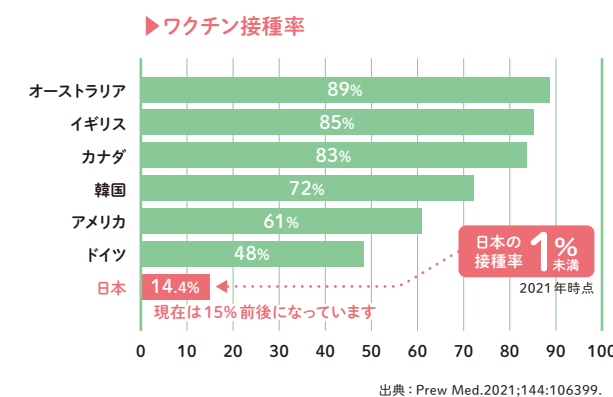
2023年4月から9価HPVワクチン（シルガード9）が定期接種となり、初交前接種で予防効果は約90%にもなります。健康被害が生じた場合は、予防接種法による救済を受けることが出来ます。当病院は、接種後に重篤な副作用がでたときにすぐ受診が出来る協力研究機関でもあります。皆さんが正しい知識を習得してHPVワクチンを接種し、友人や家族に広めることで大切な人を子宮頸がんから守って欲しいと心から願っています。



近畿大学病院
小児科思春期科
医学部講師
宮崎 紘平

2005年 近畿大学医学部卒業
2009年 藤井寺市民病院小児科
2013年 国立病院機構 大阪南医療センター小児科
2015年 近畿大学附属病院小児科 助教 A
2017年 近畿大学病院小児科 医学部講師
2023年 現在に至る

【おすすめの旅行先】
九州（大分湯布院、宮崎高千穂海峡）





AYA WEEK 2022



近畿大学病院

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターのAYA世代における支援体制

がんかもしれない、または、がんの診断を受けたところから、「がんとともに歩く」という生活が始まります。緩和ケアセンターでは、がんの診断時から患者さんの苦痛や気がかりに多職種で連携し対応しています。当院では患者さんの苦痛や気がかりをもなくサポートできるよう、診察や入院の際に「生活のしやすさに関する問診票」を記載いただいています。治療が始まる時は不安でいっぱいだと思いますが、この問診票で患者さんの声を聴き、治療前や治療中の生活上の気がかりや心配ごとについて情報の整理をいたします。ご希望があれば、「緩和ケアチーム」、「緩和ケア外来」、「緩和ケア看護外来」によって患者さんのサポートを行います。その他にも、体の症状や気持ちのつらさについて主治医が問診を行い、必要時に緩和ケアチームを紹介します。

実際に当センターで行うケアの内容は多岐にわたります。困った症状に対応するだけでなく、ご希望があれば、緩和ケアチーム看護師が外来診察時に同席して、医師の説明の補助や患者さんの思いの代弁、気持ちのサポートもします。15歳から39歳までの変化に富む時期の体の症状については、緩和ケアの医師も主治医（小児科や成人の治療科）と一緒に考えていきます。気持ちのつらさについては、患者さんの普段の生活や大切にしていることを看護外来や公認心理師の面談でお伺いします。例えば「治療中の学校はどうすれば良い？」、「手術が決まったけれど、子どもに病気のことをどう伝えよう」といった気がかりに対して、調整方法やコミュニケーションのアドバイスを行います。治療の分かれ道で決めなければならないことがあれば、患者さんにとって1番良いのはどれか、どうやって決めるかを一緒に考えます。患者さんの歩く道に

起こる事を予測してアドバイスをを行い、時には急いで決めず立ち止まることも大切であるとお伝えします。私たちは、患者さんの声を聴き、ともに歩きたいと思っています。

このように、生活のしやすさに関する問診票をきっかけに患者さんの声を聞き、初診時や治療が変わる時だけではなく病気とうまくつき合っていくための方法を一緒に考え、がんとともに生活することを支えます。必要と感じた時、お話を聞いてみたいと思った時に2階患者支援センター窓口にお立ち寄りください。

AYA世代がんの社会啓発活動 「AYA week2023」に参加

当院ではAYA世代のがん患者さんへの
応援メッセージを綴ったフラッグを掲示しました。



近畿大学病院
緩和ケアセンター
がん性疼痛看護認定看護師
竹久志穂

2011年 がん性疼痛看護認定看護師認定
2019年 滋慶医療科学大学大学院修了

【おすすめの旅行先】
年末のお伊勢詣り（赤福必須♡）

AYA世代がん患者さまのこころ

AYA世代がん患者さまの多くは、学校や仕事、家族のことなど、自分の将来についての不安を抱いておられます。周りにがん経験者がおらず気持ちを打ち明けられなくて、心細い気持ちになっているかもしれません。家族や医療者など、対人関係の悩みが出てくることもあります。一方で多くの患者さまにとって、病気と直接関係がないことについては、なかなか病院では相談しづらいようです。しかし、気になっていることや戸惑っていることなど、どんなことでも身近なスタッフにお話していただけると嬉しいです。

緩和ケアセンターの公認心理師は患者さまのお話を伺い、気持ちを和らげるお手伝いをしています。不安な気持ちや対人関係の悩みについてゆっくりお話を伺った上で、悪循環になりやすい状況を整

理していくこともあります。また、小さなお子さんがいる場合など、家族の不安にどのように関わるかを助言することもできます。悩みや不安が軽くなると治療の意欲にもつながりますので、どのようなことでもお気軽にご相談ください。

参考：一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究
AYA 世代がん患者家族向け冊子「AYA」



近畿大学病院
緩和ケアセンター
公認心理師 臨床心理士
梶原都香紗

2009年 京都文教大学大学院
臨床心理学研究科博士前期課程 修了
2013年 石巻赤十字病院
2016年 大阪府済生会吹田病院
2019年より現職

【おすすめの旅行先】
仙台（七夕、ずんだもち、海の幸）

お食事を通じてAYA世代を応援します

栄養部では、二十四節気や行事に合わせて行事食と「栄養部からのメッセージ」を食事のトレーに添えています。AYA世代のがん患者さんを応援したいと思いAYA WEEKイベントに参加しました。調理師、管理栄養士が協力してAYA WEEKのハートとレインボーカラーをお菓子で表してみました。常食の方にはハートと市松模様のクッキー、軟食



の方にはハートを乗せたヨーグルトゼリー、糖尿病食の方にはおからケーキを患者さんに提供しました。体は食べたもので出来ていますし、万病に効く薬はありませんが、栄養はすべての治療に必要です。お食事を通じて患者様の笑顔を頂けたら幸いです。



近畿大学病院
栄養部 技術科長 管理栄養士
がん病態栄養専門管理栄養士、指導師
梶原克美

1982年 近畿大学医学部附属病院 栄養部入職
現在に至る
2017年 大阪教育大学大学院健康科学専攻 修了

【おすすめの旅行先】
近江八幡
ラコリーナ近江八幡、近江牛、
ヴォーリズ建築、八幡堀